

シンポジウム

「著作権延長後の世界で、我われは何をすべきか」

今後の青空文庫について



(大久保ゆう)

18:30-21:00

2019.1.10@東京ウィメンズプラザ

著作権保護期間延長で 公開できなくなった作家名一覧（20年分）

これから
どうするか

The screenshot shows the Aozora Bunko website interface. At the top left is the logo '青空文庫'. The top right navigation bar includes links for 'メイン', 'お知らせ', '別館', '資料', and '運営'. Below the navigation is a search bar with the URL 'www.aozora.gr.jp' and a search button. There are also buttons for 'Google', 'bing', and 'goo'. The main content area features the text 'インターネットの電子図書館、青空文庫へようこそ。' followed by a large black box with a red padlock icon and the text 'Public Domain Locked...'. Below this, it states '2019年1月1日' and '今日からパブリック・ドメインとならず、青空文庫には加わりません。' followed by a list of authors: '石田英一郎 大原総一郎 奥野信太郎 沢瀉久幸 木山捷平 子母沢寛 多田不二 巴谷幸吉 野田高梧 広津和郎 藤田嗣治 保篠章緒 村岡花子'. At the bottom, there is a quote: 'パブリック・ドメインの意義を忘れないために—— 富田倫生「『天に積む宝』のふやし方、へらし方」'. In the bottom right corner, there is a vertical text box: '電子出版という 私たちは（青空 青空の本を集め

これから青空文庫にできること

1. まずあくまでPDの重要性にこだわる
2. もちろん著作権あり作品も受け入れる
3. 孤児作品の扱いも検討する
4. 市民活動としての青空文庫を広める
5. 国外・世界での青空文庫利用を調査する

パブリック・ドメインの重要性



~~「うちの空さえ青ければいい？」
(青空文庫にだけ特別にアーカイヴが認められる?)~~

PDは「天に宝を積み上げる営みの、出発点」
by 富田倫生

PDだからこそ生まれる自由を
けして忘れない 軽んじない
権利制限とPDは まったく異なる

「著作権あり」と「孤児作品」

現在どちらも実験段階

(通常作業の合間にやっている)



本格的にやるなら ワーキングチーム

(本の未来基金が中核になる?)

※まず自分たちの作品が提供できるか?

「市民活動」と「海外調査」

図書館でのワークショップ
(水面下での企画あれこれ)

実際に海外でどう使われているか

施設・機関や利用者取材できるか

(情報を下さい！ 現地にも行きます)